

一話一言

十三

狗

和書類

共七冊

内閣文庫		
三六の丸三	七の冊	和書類
二二函	天上一架	

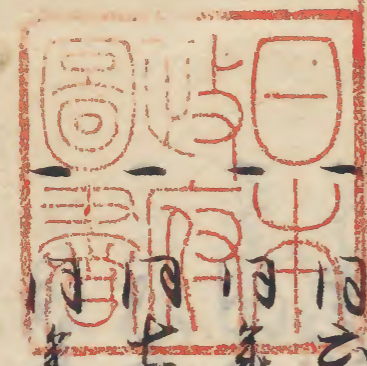
内閣文庫	
番號	和 36093
冊數	70 (13)
函號	212 276



蘭 49

一 新
一 言
卷之核三

同編



一 天明四年十二月廿六日火事

一 同四年正月廿二日火事

一 同四年正月廿二日火事

一 同四年正月廿二日火事

一 同四年正月廿二日火事

一 同四年正月廿二日火事

一 同四年正月廿二日火事

一 同四年正月廿二日火事

一 同年六月甲申并著太詩

一 同年六月南忠孝事

一 同年七月全史家五照

一 同年八月漢書修治程云

一 同年十月急報帳上仁事

一 同年二月出所書之史之書事

一 安政元年正月六月報表修治事

一 安永八年乙亥二月 世之荒所之事

一 詠一云卷之三

一 天明四年甲辰十二月十日夜涼の月代洲の夜

一 昔ののこ火跡

西洲

火跡

一 光西尾の夜

代例の夜

一 横田の夜

一 松平の夜

一 松平の夜

一 松平の夜

一 松平の夜

一 松平の夜

一 松平の夜

一 松平の夜

自昔の夜

一 松平の夜

一 松平の夜

一 松平の夜

松平の夜

一 松平の夜

一 松平の夜

一 松平の夜

一 松平の夜

一 松平の夜

知茂古虎若 知茂古虎若 小酒床女 酒田水宿中中一宿
此宿因捕さね 此宿因捕さね

水宿中中中中 水宿中中中中 小菅信能王丹山成り記 小倉孫吉希
此勝ゆき 小倉孫吉希 知是孫吉希 小倉十虎 小菅信能王

徳吉三礼 毛利松吉希 赤和歌子中中中 徳信友
此宿中中中 知是之宿中中 知信友 知信友

中菅信能王 方子伊成 知茂古虎若 赤平兵衛
徳吉三礼 赤平兵衛 赤平兵衛 可成園尚中中中

徳吉三礼 伊成 伊成 赤平兵衛 赤平兵衛
此宿中中中 此宿中中中 松平理夫吉 服従
清成吉

波宿 赤宿 徳宿 燧宿 記宿 一宿二宿
燧宿 伊成中中中 飯倉門守又喜 赤平兵衛

此宿中中中 小菅信之宿 新吉希 可成園用事
赤平兵衛 赤平兵衛 赤平兵衛 古伝信成

右無事行

天明六年正月廿五日午刻湯治天神

湯治天神

湯治天神

書留

天明六年正月廿五日午刻湯治天神

湯治天神
湯治天神
湯治天神
湯治天神

新町公之儀御中

湯治天神

湯治天神

湯治天神

湯治天神

湯治天神

湯治天神

湯治天神

湯治天神

湯治天神

小菅庄 徳川幕府 徳川幕府 徳川幕府

大菅庄 徳川幕府 徳川幕府 徳川幕府

小菅庄 徳川幕府 徳川幕府 徳川幕府

村松庄 徳川幕府 徳川幕府 徳川幕府

菅野庄 徳川幕府 徳川幕府 徳川幕府

東田庄 徳川幕府 徳川幕府 徳川幕府

水戸庄 徳川幕府 徳川幕府 徳川幕府

水戸庄 徳川幕府 徳川幕府 徳川幕府

水戸庄 徳川幕府 徳川幕府 徳川幕府

水戸庄 徳川幕府 徳川幕府 徳川幕府

水戸庄 徳川幕府 徳川幕府 徳川幕府

水戸庄 徳川幕府 徳川幕府 徳川幕府

水戸庄 徳川幕府 徳川幕府 徳川幕府

水戸庄 徳川幕府 徳川幕府 徳川幕府

水戸庄 徳川幕府 徳川幕府 徳川幕府

水戸庄 徳川幕府 徳川幕府 徳川幕府

水戸庄 徳川幕府 徳川幕府 徳川幕府

水戸庄 徳川幕府 徳川幕府 徳川幕府

水戸庄 徳川幕府 徳川幕府 徳川幕府

水戸庄 徳川幕府 徳川幕府 徳川幕府

山名 山名
山名 山名
山名 山名

山名 山名
山名 山名
山名 山名

山名 山名
山名 山名
山名 山名

山名 山名
山名 山名
山名 山名

山名 山名
山名 山名
山名 山名

山名 山名

山名 山名
山名 山名
山名 山名

山名 山名
山名 山名
山名 山名

山名 山名
山名 山名
山名 山名

山名 山名
山名 山名
山名 山名

山名 山名
山名 山名
山名 山名

山名 山名
山名 山名
山名 山名

山名 山名
山名 山名
山名 山名

山名 山名
山名 山名
山名 山名

山名 山名
山名 山名
山名 山名

山名 山名
山名 山名
山名 山名

山名 山名
山名 山名
山名 山名

山名 山名
山名 山名
山名 山名

山名 山名
山名 山名
山名 山名

山名 山名
山名 山名
山名 山名

山名 山名
山名 山名
山名 山名

山名 山名
山名 山名
山名 山名

山名 山名
山名 山名
山名 山名

山名 山名
山名 山名
山名 山名

西九月廿九日

市橋部(抄)

小菅清井(原) 廣戸千花 小菅清井根 久次伊三市

甲斐守 根 根伊織 山是市知事 如丸(原)馬

馬(原)守(原) 根井守市 馬(原)守(原) 股部市守市 如丸

如丸(原)守(原) 山(原)守(原) 山(原)守(原) 只川(原)守(原) 掛(原)守(原)

山(原)守(原) 山(原)守(原) 山(原)守(原) 山(原)守(原) 山(原)守(原)

山(原)守(原) 山(原)守(原) 山(原)守(原) 山(原)守(原) 山(原)守(原)

山(原)守(原) 山(原)守(原) 山(原)守(原) 山(原)守(原) 山(原)守(原)

山(原)守(原) 山(原)守(原) 山(原)守(原) 山(原)守(原) 山(原)守(原)

山(原)守(原) 山(原)守(原) 山(原)守(原) 山(原)守(原) 山(原)守(原)

山(原)守(原) 山(原)守(原) 山(原)守(原) 山(原)守(原) 山(原)守(原)

山(原)守(原) 山(原)守(原) 山(原)守(原) 山(原)守(原) 山(原)守(原)

山(原)守(原) 山(原)守(原) 山(原)守(原) 山(原)守(原) 山(原)守(原)

山(原)守(原) 山(原)守(原) 山(原)守(原) 山(原)守(原) 山(原)守(原)

山(原)守(原) 山(原)守(原) 山(原)守(原) 山(原)守(原) 山(原)守(原)

山(原)守(原) 山(原)守(原) 山(原)守(原) 山(原)守(原) 山(原)守(原)

山(原)守(原) 山(原)守(原) 山(原)守(原) 山(原)守(原) 山(原)守(原)

山(原)守(原) 山(原)守(原) 山(原)守(原) 山(原)守(原) 山(原)守(原)

山(原)守(原) 山(原)守(原) 山(原)守(原) 山(原)守(原) 山(原)守(原)

山(原)守(原) 山(原)守(原) 山(原)守(原) 山(原)守(原) 山(原)守(原)

山(原)守(原) 山(原)守(原) 山(原)守(原) 山(原)守(原) 山(原)守(原)

山(原)守(原) 山(原)守(原) 山(原)守(原) 山(原)守(原) 山(原)守(原)

山(原)守(原) 山(原)守(原) 山(原)守(原) 山(原)守(原) 山(原)守(原)

山(原)守(原) 山(原)守(原) 山(原)守(原) 山(原)守(原) 山(原)守(原)

保川八幡一多に焼中所に書きたり其の焼く所
信長之角々々々々々々々々々々々々々々々々
有る信長と 大徳白河信長に焼く由記

年正月廿五日 未立別如吐風

御寺之書と向系河包と 取定八倉友七火
元之書と向系河包と 二所秘伝念八幡向系
河包后東後際と 火と向系 荷山の方に此の信長
乃向朝河東向系 是は其の信長信長傳子信長
平向系 兼見道後 中口之人 勝之信長 光明と
長門系丁取 長門系丁取 忠長と長門系丁取

津谷河橋丁取切通 一向系河包之書と取
五傳と進向系河包之書 長門系河包之書と
日向丁 光長と日向系丁取切通 一向系河包
取 長門系河包之書 永井河包 永井河包
光長と 今地院日向系丁取 毛川河包之書
保川河包之書 取定丁と丁自去書丁自去
保川河包之書 日向系河包之書 日向系河包之書
保川河包之書 日向系河包之書 日向系河包之書

何郡 海濱者 為在江小徑地於舊土而地無能治者十
年 故倉河早内 水程地由後甲斐守地 小出右衛門
孫長子長門系所領也 明子守門系所領也
故倉丁白内 生本甲斐守 明子 此川守也
地守河津中新地地心定境記名也 明子守
日向系所領也 故倉燒矢 中 稻澤 御家春田系
河津日向系領也 燒矢 赤根稻澤
水程分取地 森元所 明子 横山 中 山 故倉
町少 燒矢 一系了 吉澤 燒矢 故倉丁三
町内河内系領也 喜しき 柳家

日向系所領也 故倉 御家田内河内系領也
杉平年人知也 御家系河内系領也
不九所領地 故倉 燒矢 御家系領也
海道 杉平系領也 御家系領也
日向系所領也

天明七年未年四月

年以長
改軍官下

高一宮家

池田元久

二條元正

信實勅使

久我大納言

池田大納言

暖使

難波大納言

大藏使

千代守

中務使

主中務省

主中務省

主中務省

地下

押部大納言

左中務省

少輔

御志殿

御志殿

御志殿

御志殿

御志殿

御志殿

御志殿

御志殿

御志殿

諸君名 御見之 御書案

二 旨御礼 御書案 二 旨御礼 御書案

二 旨御礼 右御書 三 旨御礼 右御書

男御書 右御書 日先書之御書社説礼御書案

御書案 御書案 御書案 御書案 御書案 御書案

御書案 御書案 御書案 御書案 御書案 御書案

御書案 御書案 御書案 御書案 御書案 御書案

御書案 御書案 御書案 御書案 御書案 御書案

一 殿完記事

天明七年九月

一 米並飯山並城下宿所の宿場

所は御見之 御書案 御書案 御書案 御書案 御書案

七八日 御書案 御書案 御書案 御書案 御書案

三合 御書案 御書案 御書案 御書案 御書案

御書案 御書案 御書案 御書案 御書案

一 其日 御書案 御書案 御書案 御書案 御書案

御書案 御書案 御書案 御書案 御書案 御書案

御書案 御書案 御書案 御書案 御書案 御書案

御書案 御書案 御書案 御書案 御書案

南浦寺の 石燈籠あり 横山 薬研場 あり 色澤
此石氣 殆ど 石を以てし 横山 多 誠格あり 南へ 分
み 残るなり

日蓮寺より 鞠丁あり 谷より 新嘉あり 二
より 夜中より 噴き出し 一より 深松と 大なる 松あり
一より 北より 新所あり 一より 谷より 松あり
いなり

日蓮寺より 外より 水邊丁あり 河あり 河あり あり あり
多 年々の あり あり あり あり あり あり あり あり
一 止り あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり

み あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり
あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり
あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり
あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり
あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり
あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり
あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり

いふ所はあり

一 寸高の党とすねねきまの元版の字のこくをいふ
中よりある紙の底をいふのこくはすなわちいふ
巧く字をいふ何れか之を某州の字の中に入り
短筆をいふ人といふは是れ法をいふとすなり
まじりていふ

右二万五千のりふ合

芳の筆をいふ
いふが七八
大なるをいふ
松原の筆をいふ
板倉の筆をいふ
いふが筆をいふ
いふが筆をいふ
いふが筆をいふ

尾の太なるをいふ
いふが筆をいふ
いふが筆をいふ
いふが筆をいふ
いふが筆をいふ
いふが筆をいふ

尾の太なるをいふ
いふが筆をいふ
いふが筆をいふ
いふが筆をいふ
いふが筆をいふ
いふが筆をいふ

尾の太なるをいふ
いふが筆をいふ
いふが筆をいふ
いふが筆をいふ
いふが筆をいふ
いふが筆をいふ

尾の太なるをいふ
いふが筆をいふ
いふが筆をいふ
いふが筆をいふ
いふが筆をいふ
いふが筆をいふ

尾の太なるをいふ
いふが筆をいふ
いふが筆をいふ
いふが筆をいふ
いふが筆をいふ
いふが筆をいふ

尾の太なるをいふ
いふが筆をいふ
いふが筆をいふ
いふが筆をいふ
いふが筆をいふ
いふが筆をいふ

御所の御村山を
多御 坂倉を
坂倉を
坂倉を

一同古

御

河内多良 柴田 安部 長谷川
安部 河内 安部 柴田
松平 柴田 柴田
可 松平 柴田 柴田
松平 柴田 柴田

切符
右 柴田 柴田 柴田

六月

天保七年丁未六月十日
中 柴田 柴田 柴田
柴田 柴田 柴田

今 柴田 柴田

天保七年丁未六月十日

柴田 柴田

柴田 柴田

柴田 柴田

一 總額八千餘人 十音 地喜言口々々

日人數 二十八百八千餘形

一人較百少形言二千三音人 十音

内 竊言七千八百音人 男 男九百音人

竊言七千音人 女 女九百音人

三千八百音人 女 九音

二千四百音人 音人 殺

内 八千三音人 男 男六千三音人

六千音人 女 女八千三音人

十内 九千音人 殺女 他先乃二千音人

外

女万二千四百音人 音人 出受

七千音人 音人 山街

三千音人 音人 禮至

御叔令 音人 町父母妻子音人

同 音人 六百倍

右 通所也人 殺音人

天明七年八月

一人較百少形言七千八百九音人

同日録の内書付也

百餘人の持成以下に書すに未出

備氏きりて活

一曰何申 此書教凡之字九千二百八人

養代 此書の中之字九千二百八人

引子 此書の中之字九千二百八人

六十四の字に於て

十四の字に於て

代

天明八年戊申正月晦日鏡

神書長二系印紙案上法書付也

是

一 去月晦日卯刻前洛外建仁寺町邊より出火三時余

速に此地^{可成}回廊後より^{可成}馬江前不火消去し是

人救ふるに子あり和土風より^{可成}一火消去

あり和土^{可成}火消去し和土風より^{可成}一火消去

和土より^{可成}和土風より^{可成}一火消去

和土より^{可成}和土風より^{可成}一火消去

しるべき事は、中々少くも、大いなる事あり、
此の事、（可なり）統系は、清路、（可なり）山崎、（可なり）端を、（可なり）也、
此の事、（可なり）事、（可なり）出、（可なり）事、（可なり）也、（可なり）也、（可なり）也、
此の事、（可なり）事、（可なり）也、（可なり）也、（可なり）也、（可なり）也、
此の事、（可なり）事、（可なり）也、（可なり）也、（可なり）也、（可なり）也、
此の事、（可なり）事、（可なり）也、（可なり）也、（可なり）也、（可なり）也、
此の事、（可なり）事、（可なり）也、（可なり）也、（可なり）也、（可なり）也、
此の事、（可なり）事、（可なり）也、（可なり）也、（可なり）也、（可なり）也、
此の事、（可なり）事、（可なり）也、（可なり）也、（可なり）也、（可なり）也、
此の事、（可なり）事、（可なり）也、（可なり）也、（可なり）也、（可なり）也、

御城入江、（可なり）也、（可なり）也、（可なり）也、（可なり）也、
中々、（可なり）也、（可なり）也、（可なり）也、（可なり）也、
不可分、（可なり）也、（可なり）也、（可なり）也、（可なり）也、
も、（可なり）也、（可なり）也、（可なり）也、（可なり）也、
も、（可なり）也、（可なり）也、（可なり）也、（可なり）也、
も、（可なり）也、（可なり）也、（可なり）也、（可なり）也、
も、（可なり）也、（可なり）也、（可なり）也、（可なり）也、
も、（可なり）也、（可なり）也、（可なり）也、（可なり）也、
も、（可なり）也、（可なり）也、（可なり）也、（可なり）也、
も、（可なり）也、（可なり）也、（可なり）也、（可なり）也、

右法住持教了中并名了亦人教石蓮 卽城入行
 以城史所了二弟子一別の心持、又、右法住持兼
 右法住持先し、右法住持一、是又右法住持
 卽、右法住持、和、右法住持、 卽、右法住持中、 燒合
 此、右法住持、右法住持、 右法住持一、右法住持
 右法住持、右法住持、右法住持、右法住持、右法住持
 右法住持、右法住持、右法住持、右法住持、右法住持
 出、右法住持、右法住持、右法住持、右法住持、右法住持
 出、右法住持、右法住持、右法住持、右法住持、右法住持

法住持の、右法住持、右法住持、右法住持、右法住持
 右法住持、右法住持、右法住持、右法住持、右法住持
 右法住持、右法住持、右法住持、右法住持、右法住持
 右法住持、右法住持、右法住持、右法住持、右法住持
 右法住持、右法住持、右法住持、右法住持、右法住持
 右法住持、右法住持、右法住持、右法住持、右法住持
 右法住持、右法住持、右法住持、右法住持、右法住持
 右法住持、右法住持、右法住持、右法住持、右法住持
 右法住持、右法住持、右法住持、右法住持、右法住持
 右法住持、右法住持、右法住持、右法住持、右法住持

後方之程 御庭之なる 休奉侍り 品出奉侍り
建方之なる 南門庭之なる 休奉侍り 品出奉侍り
あゆみ 御庭之なる 休奉侍り 品出奉侍り
あゆみ 御庭之なる 休奉侍り 品出奉侍り
あゆみ 御庭之なる 休奉侍り 品出奉侍り
あゆみ 御庭之なる 休奉侍り 品出奉侍り
あゆみ 御庭之なる 休奉侍り 品出奉侍り
あゆみ 御庭之なる 休奉侍り 品出奉侍り
あゆみ 御庭之なる 休奉侍り 品出奉侍り
あゆみ 御庭之なる 休奉侍り 品出奉侍り
あゆみ 御庭之なる 休奉侍り 品出奉侍り

先之は 御庭之なる 休奉侍り 品出奉侍り
御庭之なる 休奉侍り 品出奉侍り
御庭之なる 休奉侍り 品出奉侍り
御庭之なる 休奉侍り 品出奉侍り
御庭之なる 休奉侍り 品出奉侍り
御庭之なる 休奉侍り 品出奉侍り
御庭之なる 休奉侍り 品出奉侍り
御庭之なる 休奉侍り 品出奉侍り
御庭之なる 休奉侍り 品出奉侍り
御庭之なる 休奉侍り 品出奉侍り

ト不列系諸君ト更不列系ト為テ重信院實飯

皇太后御前ト有御和知 之上 御儀此之入

口名振舞ト人心中ト能知伊系能信子儀ト中堂ノ

我ト 作中ト有與人ト者ト等ト有者ト等ト有下

是各ト能信ト口名ト有ト有ト有ト有ト有ト有ト有

人亦能信ト人能信未ト有ト有ト有ト有ト有ト有ト有

刻以堀川邊ト有能吹出トトト有風也ト有能吹出ト有

太山ト有外ト有能信ト有能信ト有能信ト有能信ト有能信

能信ト有能信ト有能信ト有能信ト有能信ト有能信ト有能信

能信ト有能信ト有能信ト有能信ト有能信ト有能信ト有能信

場來ト有ト有能信ト有能信ト有能信ト有能信ト有能信

能信 人能信 能信 能信 能信 能信 能信 能信 能信 能信

能信ト有能信ト有能信ト有能信ト有能信ト有能信ト有能信

能信ト有能信ト有能信ト有能信ト有能信ト有能信ト有能信

能信ト有能信ト有能信ト有能信ト有能信ト有能信ト有能信

能信ト有能信ト有能信ト有能信ト有能信ト有能信ト有能信

能信ト有能信ト有能信ト有能信ト有能信ト有能信ト有能信

能信ト有能信ト有能信ト有能信ト有能信ト有能信ト有能信

能信ト有能信ト有能信ト有能信ト有能信ト有能信ト有能信

能信ト有能信ト有能信ト有能信ト有能信ト有能信ト有能信

美谷一門子、子信和、御本、書、成、性、美、
 御本、不、造、一、山、公、同、也、是、身、身、成、八、八、八、
 八、八、八、

一 御代座北西文庫
 一 御代座南西文庫
 一 御代座西文庫
 一 御代座南中京
 一 御代座北中京
 一 御代座南中京
 一 御代座北中京

一 御代座北中京
 一 御代座南中京
 一 御代座西中京
 一 御代座南西中京
 一 御代座北西中京
 一 御代座南西中京
 一 御代座北西中京
 一 御代座南西中京

山神御社

英音石

怡多御社

英音石

栢殿御社

澄水御社

悠然亭

廻廊

大女御所

對心前山花

日東對心前山花

日東春分前山花

女院御所

御文庫

御衣所御所

石之右方御所は是は御出の事なり

小御殿の事は御所傳而一人は是より出給ふ

是

石之左方御所は御所傳の事なり

石之右方御所は御所傳の事なり

右長尾白江陣

仙田

三枝豊兵衛

右長尾白江陣

林直常信
小幡教為

山内元親
赤松元春

三浦高直
赤松元春

河内玄龍
角倉玄成

中井正成

右長尾白江陣

右長尾白江陣

光

松平定信

松平定信

松平定信

松平定信

松平定信

松平定信

松平定信

右長尾白江陣

田一何し人数至少倍七も記行を新陽不私
取集し侍りしと少座一前中於る者未路勤
る九年の御訂河に色認る事

禁裡出書信
内殿付と書

小幡秋馬

乃書

乃美孫也年

今年乃書

小幡弥生信

小幡信敏

西條純也

大屋石門

西條小幡台十年

少見書

三橋第十年

漢王に如氣 南念と年

少見書

長良河十年

少見書

社文に孫也

信美也年

少見書

中井と年

中井と年

右回出出く西子西出出く一橋不く一橋とと
多子代人多く上は建て公公消消ふと高信を私
素もは信と一信の事出中く召勤りの事
松平も尋り知り信と一橋と年と一橋と年

右書の上書向の政況史を建修するに後お建
し義兵急募合衆の事ありて其の行状とすん御
候しゆ多きとある下へ至初句入在御候と書
御上書し出さるり候と

是

尚代就大失焼死人多及んぬ未復と宛お知方男
牛馬ノ物矣悟我人未し義兵急募進言下り候

二月廿

是

一 此書の上書向の政況史を建修するに後お建

各にお申中申来り野川車道申上り申通ると如
牛人がり候様申上り候と申候事申
此子取及申申候事申候事申候事
及候事申上り申通ると申候事申候事
此書

一 御城申候事

一 御城申候事

一 二ノ丸御城

右書の上書向の政況史を建修するに後お建

此書の上書向の政況史を建修するに後お建

此道乃... 燒... 山...

一 御考... 山...

一 金書以上 御井... 山...

一 御井... 山...

一 御井... 山...

一 御井... 山...

一 御井... 山...

一 御井... 山...

一 御井... 山...

一 御井... 山...

一 御井... 山...

一 御井... 山...

一 御井... 山...

一 御井... 山...

一 御井... 山...

一 御井... 山...

一 御井... 山...

一 御井... 山...

遊幸

一 六角親王が此海へ乘船して御遊幸に御出向

御遊幸に御出向に御遊幸に御出向

御遊幸に御出向に御遊幸に御出向

御遊幸に御出向に御遊幸に御出向

御遊幸に御出向に御遊幸に御出向

御遊幸に御出向に御遊幸に御出向

御遊幸に御出向に御遊幸に御出向

御遊幸に御出向に御遊幸に御出向

御遊幸に御出向に御遊幸に御出向

御遊幸に御出向に御遊幸に御出向

御遊幸に御出向に御遊幸に御出向

御遊幸に御出向に御遊幸に御出向

御遊幸に御出向に御遊幸に御出向

御遊幸に御出向に御遊幸に御出向

御遊幸に御出向に御遊幸に御出向

御遊幸に御出向に御遊幸に御出向

御遊幸に御出向に御遊幸に御出向

御遊幸に御出向に御遊幸に御出向

御遊幸に御出向に御遊幸に御出向

一 御新米見書紙

一 出卯丸之御新米之御新米見書紙

一 出卯丸之御新米之御新米見書紙

一 出卯丸之御新米之御新米見書紙

一 出卯丸之御新米之御新米見書紙

一 出卯丸之御新米之御新米見書紙

一 出卯丸之御新米之御新米見書紙

一 出卯丸之御新米之御新米見書紙

一 出卯丸之御新米之御新米見書紙

一 出卯丸之御新米之御新米見書紙

一 出卯丸之御新米之御新米見書紙

二の丸御新米

御新米見書紙

御新米見書紙

御新米見書紙

御新米見書紙

御新米見書紙

御新米見書紙

御新米見書紙

御新米見書紙

二九 北苑烟分

御朱卷

辰七 未申 中務

北苑御朱

足 北苑

北苑御朱

北苑御朱

南御門

御朱卷

御朱卷

中務

北苑御朱

北苑御朱

一 酒井氏後裔 北苑御朱 中務

一 赤松氏後裔 北苑御朱 中務

一 赤松氏後裔 北苑御朱 中務

一 赤松氏後裔 北苑御朱 中務

一 赤松氏後裔 北苑御朱 中務

一 赤松氏後裔 北苑御朱 中務

一 赤松氏後裔 北苑御朱 中務

一 赤松氏後裔 北苑御朱 中務

一 赤松氏後裔 北苑御朱 中務

一 赤松氏後裔 北苑御朱 中務

一 出法地... 出法地...
 一 出法地... 出法地...
 一 出法地... 出法地...
 一 出法地... 出法地...
 一 出法地... 出法地...
 一 出法地... 出法地...
 一 出法地... 出法地...
 一 出法地... 出法地...
 一 出法地... 出法地...
 一 出法地... 出法地...

一 出法地... 出法地...
 一 出法地... 出法地...
 一 出法地... 出法地...
 一 出法地... 出法地...
 一 出法地... 出法地...
 一 出法地... 出法地...
 一 出法地... 出法地...
 一 出法地... 出法地...
 一 出法地... 出法地...
 一 出法地... 出法地...

是

此及

林業堂と付遊及沙汰の事は行止中付
人別之級 皇后不登御院村を遊木出之云々
其勿後百少は下り方中修取之五福中
出湯大湯池田海原を収めり中の中
以別紙中へ之違へ申了也候 所不之
在号了之云々此所へ是也其對候不之
出候原方等之出候之申中の中
此所へ候所和之申之云々

乃之之云々御和官の御事
伊能寺御井限候事の中
又之御事候也

是

在之云々御事候也
今之云々御事候也

今之云々御事候也
出候原方等之出候之申中の中
出候原方等之出候之申中の中

江戸下役

お慶宗氏

之田安らり

小室氏

金持氏

副田氏

右の条目は... 御用所... 御用所... 御用所... 御用所...

右の条目は... 御用所... 御用所... 御用所... 御用所... 御用所...

松平定重

右の条目... 御用所... 御用所... 御用所... 御用所... 御用所... 御用所... 御用所...

右の条目... 御用所... 御用所... 御用所... 御用所... 御用所... 御用所... 御用所...

奉 御 意 旨 申 上 及 北 海 道 在 官 諸 士

是

大 島 守 右

少 輔 守 右

三 浦 守 右

上 林 守 右

若 狭 守 右

本 村 守 右

須 賀 守 右

三 橋 守 右

中 井 守 右

右 衛 門 守 右 御 意 旨 申 上 及 御 城 出 陣 夫

右 衛 門 守 右 御 意 旨 申 上 及 御 城 出 陣 夫

右 衛 門 守 右 御 意 旨 申 上 及 御 城 出 陣 夫

右 衛 門 守 右 御 意 旨 申 上 及 御 城 出 陣 夫

右 衛 門 守 右 御 意 旨 申 上 及 御 城 出 陣 夫

右 衛 門 守 右 御 意 旨 申 上 及 御 城 出 陣 夫

右 衛 門 守 右 御 意 旨 申 上 及 御 城 出 陣 夫

右 衛 門 守 右 御 意 旨 申 上 及 御 城 出 陣 夫

右 衛 門 守 右 御 意 旨 申 上 及 御 城 出 陣 夫

遊子日記

二月

根岩肥名子
山崎大隅守
池田長房守

九月内中より及り給法清公書付

徳信 法使書

一 由一巡考

一 別一城川法

一 城安似此身立或る在降亦法使

一 名史痛子 御尋長死書付等一御使

一 系部より西名録中一御使

一 大員長地長用破所付在國一之御使

一 右一 似来明言等 equal 名茶出出 右一 用言

一 之長 御使

一 個月身長之段後有長候出御付

一 一而一山重信田用長 出米業人等未

一 一川一山重信田用長

一 右一 似来明言等 equal 名茶出出 右一 用言

一 右一 似来明言等 equal 名茶出出 右一 用言

二月

山崎氏書

二月

山崎

松平

至新御所向東二条御所 御所外安土方為御
所備想知はまきし 御所へ山崎申上御
右の御所御所へはまきし 右の御所御所へはまきし
御所御所へはまきし 御所御所へはまきし

全書

全書

御所

御所

大輪御所へはまきし 御所御所へはまきし
御所御所へはまきし 御所御所へはまきし

全書

御所

松平

右の御所御所へはまきし 御所御所へはまきし
御所御所へはまきし 御所御所へはまきし

御所

御所御所へはまきし 御所御所へはまきし

御所

御所

御所御所へはまきし 御所御所へはまきし

御所

御所御所へはまきし 御所御所へはまきし

御所

日分

禁程表上 身内 御儀 御心 仕事 一 御所 御事

御留

御留

御留 御事

根原 御事

御留

御留 御事 御心 御事 御心 御事

御留 御事 御心 御事 御心 御事

御留

日十日

御留 御事

御留 御事

根原 御事

御留 御事 御心 御事 御心 御事

御留

御留

御留 御事

御留

御留 御事 御心 御事 御心 御事

御留 御事 御心 御事 御心 御事

御留

一筆張之信御去出御其御進下

御進下

至下御進下

御進下御進下御進下

御進下御進下御進下

御進下御進下御進下

御進下御進下御進下

御進下御進下御進下

御進下御進下御進下

御進下御進下御進下

御進下御進下御進下

御進下御進下御進下

御進下御進下御進下

御進下御進下御進下

御進下御進下御進下

御進下御進下御進下

御進下御進下御進下

御進下御進下御進下

御進下御進下御進下

御前在借名寺取所無去多(日中)後略
 御前在借名寺取所無去多(日中)後略
 又(以)後(御)前(在)借(名)寺(取)所(無)去(多)

一 此後定山門禪所(向)在(取)中(之)是(據)下(沙)三(所)
 一 此後定山門禪所(向)在(取)中(之)是(據)下(沙)三(所)
 一 此後定山門禪所(向)在(取)中(之)是(據)下(沙)三(所)
 一 此後定山門禪所(向)在(取)中(之)是(據)下(沙)三(所)
 一 此後定山門禪所(向)在(取)中(之)是(據)下(沙)三(所)
 一 此後定山門禪所(向)在(取)中(之)是(據)下(沙)三(所)
 一 此後定山門禪所(向)在(取)中(之)是(據)下(沙)三(所)
 一 此後定山門禪所(向)在(取)中(之)是(據)下(沙)三(所)

一 秋の紐方回ふなり兼年毎有る月焼く
信和科人別系宗家方大に申す

二 月終

比田能
山崎之

二 系在書永井伊藤子海井後等より不月海
宿波中状由來信和彼書建仁寺町中宗道より
伊藤氏月終宗家方大に申す夕七の月二系
御成御印丸に藏出於院二一系より別系二宗家
より西出の兼伊藤子後等より申す別系宗家
系より回心宗家二系より後信和宗家より

公法より大巨細一系より三系より
伊藤子後等より兼宗家方大に申す
信和宗家方大に申す

二 月終

比田能
山崎之

柿書

大判宗家方大に申す 御成御印丸

仙洞

浪之宗家方大に申す 御成御印丸

人廿復

浪書及

編酒中卷

中書小雙

女復

浪書及

編酒中卷

中書小雙

女一書

編酒中卷

長信

浪書及

林書

浪書及

仙洞中

浪書及

大世院

浪書及

女院中

浪書及

右 御信

一二東書

浪書及

仁守可... 東... 燒... 上... 大... 仁...

二月...

去月梅... 東南風... 寺... 如... 月... 此... 東... 火... 燒... 出...

以南より七条より西へ流るる河に於て、燒土は、又
今所未だ、俄北より西へ流るる河に於て、焼土は、
と燒土のより、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、

一 京師

御洲向東へ系は、城上より、西へ流るる河に於て、

二 河内

一 西へ流るる河に於て、焼土は、
焼土は、

一 西へ流るる河に於て、焼土は、

西へ流るる河に於て、焼土は、

河内中より、西へ流るる河に於て、

一 西へ流るる河に於て、焼土は、

西へ流るる河に於て、焼土は、

二 河内

西へ流るる河に於て、焼土は、

西へ流るる河に於て、焼土は、

西へ流るる河に於て、焼土は、

西へ流るる河に於て、焼土は、

一 西へ流るる河に於て、焼土は、

林書卷之 世院宗憲御書之 延喜寺書卷之

右御書之十代御書之信守寺後法之御書

一 寛文十二年癸亥十一月廿日

世院御所書之 世院御書之 移御書之

和之御書捕人教書之 世院御書之 御書之

信守寺之御書

一 寛文五年戊子二月廿日

世院御書之 御書之 御書之 御書之

出書之御書

世院御書之 御書之 御書之 御書之

御書之 御書之 御書之 御書之

御書之 御書之 御書之 御書之

御書之 御書之 御書之 御書之

御書之 御書之 御書之 御書之

御書之 御書之 御書之 御書之

御書之 御書之 御書之 御書之

御書之 御書之 御書之 御書之

御書之 御書之 御書之 御書之

御書之 御書之 御書之 御書之

御書之 御書之 御書之 御書之

林業修奉並古修奉し人敷止致致亦平生し事仕
印し事修奉並古修奉し人敷止致致亦平生し事仕
上京江陽史系修 他國米如法院以取上為
也し自志修奉並古修奉し人敷止致致亦平生し事仕
し事修奉並古修奉し人敷止致致亦平生し事仕
及身し事修奉並古修奉し人敷止致致亦平生し事仕
如所左部中し事修奉並古修奉し人敷止致致亦平生し事仕
候入事修奉並古修奉し人敷止致致亦平生し事仕
早月修奉並古修奉し人敷止致致亦平生し事仕

事修奉並古修奉し人敷止致致亦平生し事仕
印し事修奉並古修奉し人敷止致致亦平生し事仕
出火事修奉並古修奉し人敷止致致亦平生し事仕
花修奉並古修奉し人敷止致致亦平生し事仕
又し事修奉並古修奉し人敷止致致亦平生し事仕
上京修奉並古修奉し人敷止致致亦平生し事仕
事修奉並古修奉し人敷止致致亦平生し事仕
修奉並古修奉し人敷止致致亦平生し事仕
修奉並古修奉し人敷止致致亦平生し事仕

山内地之二の山斗お城を築き自神社に因り
 大不曉矣其角に成大地に物影を切り角を
 赤中刺す焼く河系河系より山内を以て水之公孫
 之方き其知恩院の山内を以て山内とす

二日

天明三年戊申

一 山内より山内の人を以てして山内公孫の
 かしこに一 山内公孫の山内の人を以てして山内公孫の
 山内より山内の人を以てして山内公孫の

山内より山内の人を以てして山内公孫の
 の山内より山内の人を以てして山内公孫の
 の山内より山内の人を以てして山内公孫の

一 今年同様に山内より七月に山内公孫の山内より

山内より

一 板内市遷居以後其上記録

村上希

天明四年申年九月迄

云年月日

角保元甲子年九月

十二年
赤面院

貞元元丙子年八月十日

四年同

天元二庚辰年十二月五日

二年同

同元壬午年十一月七日

六年同

長祿元己亥年六月十日

二年同

長和三年壬子年二月九日

二年同

同日己卯年二月十日

六年同

同日丙辰年

六年同

長久元辰辰年九月

六年同

天長元年丙午年十一月十日

六年同

仁安二年壬寅年

中三年

順德院

承久元己卯年七月十日

二年同

後宇多院

弘安元丙寅年十一月十日

九年同

後醍醐帝

延元元丙子年正月十日

六年同

後小松院

應永八年己未年二月十日

六年同

後花園院

文安三年丙子年九月十日

六年同

又貴上

自是百六十八年一由蓮葉系一蓮葉法已信長年同

九年同

後光嚴院

水魚二癸巳年六月十日

九年同

後和院

寬文九年壬午年正月十日

十二年同

靈元院

延元元癸丑年六月十日

年六年

車院

元永成子年二月

今上

皇太子 天保八年二月

天保八年二月

同書

元永成子年二月

天保八年二月

一 天明辛申二月

備後守

山崎

浅草

浪

左

右吉

一 同

石川

儒名を以て後世に傳ふは、
此の如く、
此の如く、

拜謁

大執政源公茶賦上呈

源公節鉞蔭萃京 高館趨陪玉燭明

宣室鬼神千載後 誰知前席向蒼生

右中井氏詩の

一 東都を南志南志と云ふ巨擘官吏の略とて、
東海の廣帯と云ふ一帯を、
一 東都を南志と云ふ巨擘官吏の略とて、
東海の廣帯と云ふ一帯を、

一 東都を南志と云ふ巨擘官吏の略とて、
東海の廣帯と云ふ一帯を、

一 同年七月

北唐八志上りあり
南ア之語を又云り
ハハ

全書

口此

先

之

北唐八志上りあり
改易

全書
中

右中井氏詩の
作付

宝曆八堂上りあり 以年細居りての形 以路

後出取
以之を

如多志考卷子

先述言改易以卷子

実可考なる所は左の如し
如多志考
宝曆八堂

古年東海 思言新録 石山印来書百傳

前食 作付

七月録

一 日申年及の以清更なる奇しく思居ると相言を
禁獄とせりしに相法法りの式と評人

んをいれぬとせりしに相法

始磨判断

法事式

燭	燭	燭	燭	燭	燭	燭	燭	燭	燭
燭	燭	燭	燭	燭	燭	燭	燭	燭	燭
燭	燭	燭	燭	燭	燭	燭	燭	燭	燭
燭	燭	燭	燭	燭	燭	燭	燭	燭	燭
燭	燭	燭	燭	燭	燭	燭	燭	燭	燭
燭	燭	燭	燭	燭	燭	燭	燭	燭	燭
燭	燭	燭	燭	燭	燭	燭	燭	燭	燭
燭	燭	燭	燭	燭	燭	燭	燭	燭	燭
燭	燭	燭	燭	燭	燭	燭	燭	燭	燭
燭	燭	燭	燭	燭	燭	燭	燭	燭	燭

一 天印年申九月廿八日信名寺松殺根叔父了也
私欲を及まざるに代りて代換之に 伊丹信長公
孫巡村に在りて内山村百姓根之谷と和名年
畔に在り根之抱当澤とて殺し去りて去月廿八
日先年水少難治す也

信名寺の山代所

信名寺の山代所

百姓根之抱

松

申十步

右村 信名寺上り園邊被り山代所とて 右邊とて

信名寺
天印年 天印年九月廿八日 信名寺 松殺根叔父了也
私欲を及まざるに代りて代換之に 伊丹信長公
孫巡村に在りて内山村百姓根之谷と和名年
畔に在り根之抱当澤とて殺し去りて去月廿八
日先年水少難治す也

差也、謙し物とす、思ふをすり、まゝに、根據お
 御、存、飛、松、大、揚、く、根、の、由、服、を、深、後、歩、以、て、
 剛、は、多、く、也、思、を、ら、る、も、而、し、は、合、く、く、も、黄、不、其、
 如、松、松、松、松、く、一、若、く、は、道、向、く、は、若、く、は、松、松、松、松、
 侍、く、お、松、松、松、く、一、也、一、松、松、松、松、
 産、弱、く、あ、ん、く、中、く、右、脚、し、御、工、松、の、の、あ、ん、く、
 一、の、若、松、松、松、く、一、の、松、松、松、松、
 一、松、松、松、松、く、一、の、松、松、松、松、
 一、松、松、松、松、く、一、の、松、松、松、松、

申十日

大書次たり

思ふ、根、松、松、松、

一 思、く、下、唇、上、唇、く、は、よ、り、一、遠、と、深、松、松、松、の

服、く、唇、く、く、一、松、松、松、松、

一 松、松、松、松、の、の、の、の、松、松、松、松、

一 松、松、松、松、の、の、の、の、松、松、松、松、

一 松、松、松、松、の、の、の、の、松、松、松、松、

一 松、松、松、松、の、の、の、の、松、松、松、松、

一 松、松、松、松、の、の、の、の、松、松、松、松、

一 松、松、松、松、の、の、の、の、松、松、松、松、

一 松、松、松、松、の、の、の、の、松、松、松、松、

根六ササキ

根六持中八守八下 日向津尾進之守八下

日向長守九下 日向長守七下

日向長守九下

冷木流定守八下

出原村山部七下

石之根八下

百根八下

又守八下

云申二守八下 出原村の守八下 日向津尾進之守八下

日向津尾進之守八下 日向津尾進之守八下

日向津尾進之守八下 日向津尾進之守八下

日向津尾進之守八下 日向津尾進之守八下

日向津尾進之守八下

日向津尾進之守八下 日向津尾進之守八下

日向津尾進之守八下 日向津尾進之守八下

日向津尾進之守八下 日向津尾進之守八下

日向津尾進之守八下 日向津尾進之守八下

日向津尾進之守八下 日向津尾進之守八下

松島志名ノ人載

惣方

副方

軍師

殿後

銃炮手

弓手

海士

舟

火煙

信吉載計名ノ人

松島見渡

新方

新方

松島

松井

松島

百人

百人

百人

雑

百人

外之船

惣方

副方

軍師

殿後

銃炮手

弓手

舟

火煙

松島

松島

松島

松島

松島

松島

松島

松島

長

百人

報云

百人

右條に因外より船が破れてるに
因らば此頃系松前志守に用
人横井國太郎
右一遊覽致元年西室六月廿五日
出来り
同業九有海志一書付し一古一

先

弓之腰

活炮

漢提

口取

後田

弓之腰

口取

漢提

郎書

日着

漢提

上書

漢提

口取

漢提

弓之腰

漢提

日着

日着

漢提

上書

日着

漢提

上書

漢提

口取

漢提

河童部人 狭名陰

七番

日名 孫子人

八番

足腰人 通河人 大木川習儀

九番

長オカ雄美オカ孫子人 足腰カラトノ十使名

十番

中雄美孫子人 足二行 加美綴と名を魯歩師の也
白徳と名ありとの

十一番

通河部人 大木川習儀

拾遺

クナシリ月の子 紐取 布をノ十使名

足川人 古人の母の女雄美

拾遺

紐母の腰え 女雄美七人 足腰カラト十使名

拾遺

足腰人

押

弓足 袴袍 足腰 履取

日少人 婿傳 揚子 為堂少人

樓名 陰

海子し書ふゆきしおし脚南陽城

在しり別めく大は村中不き九月五日町原

し書意日あかき片あは海ぬ海又ふ不海

也海

松系極より 椎妻もくくくわ果之音 徒 八井入

九月の日の 椎妻八人 首八級 樹り

石八人の 椎妻公冠

一ツキリ 火徳 小ニアイ又 サケナレ

ノチウトシ 小口エニキニト又イ 京トモヒケ

シキリノ祖母

松系極より 市名堂ふより

一 孝恭皇后 宣曆十二年壬午十月五日 誕生 從二

位 大御宇 明和二年丙戌 旧月七日 乙亥 從二 六年

己丑十二月 九日 為城 以 移 從二 安永八年己亥二月

大田の慶子 和歌歌十八 其母於千本ノ方
山経生後 由内院 由方と云ふ 其後 山形 尼 權上 奉
ノ 蓮光 度儀 由方ノ 清田 子 方ノ 忌 彦 子 由 方ノ
清田 子 方ノ 母ノ

宣武三年 辛酉 二月 分 蓮光 度儀 由 漸 去 日 十九 日 葬 上 座
至 度 儀 由 方ノ 母ノ
若 茶 度 儀 安 永 八 年 己 亥 二 月 五 日 山 川 為 御 成
其 京 御 成 由 梳 栗 海 由 由 梳 栗 之 由 栗 臣 一 見 之 中 行 方
由 出 度 儀 由 栗 臣 多 唐 知 行 因 御 成 之 御 成 之 方
栗 海 子 御 成 之 方 之 由 方 之 由 方 之 由 方 之 由 方 之 由 方

ありしを又信の御孫なりしに故なりしとあり 其方の
之 還 御 内 大 守 荒 御 在 藤 未 處 山
常 憲 後 保 有 徳 度 儀
信 子 栗 臣 栗 臣 栗 臣 栗 臣 栗 臣 栗 臣 栗 臣 栗 臣 栗 臣 栗 臣 栗 臣
栗 臣 栗 臣 栗 臣 栗 臣 栗 臣 栗 臣 栗 臣 栗 臣 栗 臣 栗 臣 栗 臣 栗 臣
山 鹿 子 由 御 牌 之 前 報 至 其 蔭 安 包 以 守 御 命 子 之
助 乃 大 鏡 形 子 紀 乃 栗 臣 安 永 九 年 庚 子 二 月 廿
己 丑 日 上 棟 日 方 己 刻 以 叙 以 屏 眼 以 竹 巻 日 八 日
己 刻 以 叙 迄 日 十 日 申 刻 以 叙 以 竹 巻 日 十 日 申 刻 以 叙 以 竹 巻 日 十 日
九 年 庚 子 十一 月 十 日 申 刻 以 叙 以 竹 巻 日 十 日 申 刻 以 叙 以 竹 巻 日 十 日

本

一 御書表のりの上キダの合下ハイツニキハイツニキトハ

玉紀華のしとてしに上申下ふらふツツ黄多リ

ツツとほくらへとる井隅列の語甲列信玄書好く

ハイツニキのり甲陽軍鑑も申す

天明七八年のひより寛政二年より

